

刊夕日七廿月八



定額一冊五錢  
 廣告料五錢  
 印刷費五錢  
 電話六六〇  
 電話六六〇  
 電話六六〇

盆の思い出

凡盆生

こんなことを小さな聲で唄ふて、つとめて盆の気分を浸たろうとしたが、盆だなどいふ氣持にはなれないやつぱり盆唄は百姓の唄は百姓の實生活から生れ出なければならぬ。

盆の氣分に浸り、それに熱中してゐる人達にはふれるものすべてが唄になるのだ、彼等の盆踊りの時の言葉はみな唄になるのだ、それは彼等のみか味合ふことの出来る世界だ。

盆踊をすることの出来ぬ不幸な哀な俺は、思ふこと考へることしか出来ないのだ。踊を思ふただけ、盆を考へただけでどうして本當の唄の氣分を味合ふとが出来やう。出来ない。

盆の氣分を本當に味合ふことが出来るやうになればお月さまもお星さまとも

平の七夕祭

耕影

雅びらか七夕竹の吹き流し  
 星祭り錦の波や人の海

話することも泣くことも笑ふことも出来る。俺等は今までお月さまの光るのは太陽の反映だ、遊星だの、恒星だの、雲は水蒸氣のかたまりだの、夜露も朝露も水蒸氣のかたまりだ、すべては物質でないが、ものそのものを味合ふよりも先きにへ

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁：なす 小付 生胡瓜もみ  
 【晝】玉子と葱煎り煮 ン ース

【晚】酢の物(鰯) 山かけ もみのり) 揚げ出し なす豆腐

理窟をこねまはす習慣をつけられて、醇朴な純真さのうせた、しつからびだ冷めたい考をもつてゐた。この不幸な哀れな俺達にはあの黒々とした七夕女星の涙の光をホントウに見つめることは出来なかつた。

幾年かの孤獨の生活はお月さまやお星さまが慕しくなり、素裸体になつて大自

然の中に飛び込行きたくなつた。大自然にいつかりと喰ひつくことに依つて、ホントウに盆を味合ふことが出来るであらう。  
 こんなことを思つたのは三年前の今頃であつた。  
 (八月十八日)

花柳病科 外科  
**木村外科醫院**  
 平町六丁目橋際 電話三〇九番

木村病院  
 平町新川町十九  
 電話一六四番

井坂醫院  
 平町田町  
 電話五五九番

御新盆提灯

●御戒名提灯  
 特製スソ模様入レモ出来マス……  
 ●岐阜提灯・變形提灯  
 ……各種取揃へました……  
 是非御用命は！格價低廉の  
**スガノヤ提灯店**  
 平四 電話四九五番

お待兼の……  
 平名物(今年の)！

七夕祭のエハガキ

◎色刷 八枚組 一組 二十錢  
 部數に限りありますから御早く御求めを願ひます。

平驛前  
 いづみや玩具店

●佛壇位牌佛具一式 是非！ 近江屋へ  
 二丁目 電話七二二番

お盆提灯大賣出し

……一見涼風……  
 ……湧くが如き優秀品……

特製 新型行燈

變り型は數百種御座います。何卒御一覽下さい。

平二丁目  
**フクダヤ**

美味……  
 新鮮……  
 ベイカリー  
 東京堂のパン  
 是非御試食を！  
 平橋樋小路  
 電話一〇八番  
 徒弟入用

和洋 家具  
 椅子 家具 子供  
 其他裝飾品一般……  
 御用命は迅速に御努め致します  
**製作販賣** 諸官衙 御用達 各學校  
 平町五丁目四  
**片寄製作店**  
 片寄 小彌太  
 電話四八四番

磐城セメント會社特約店  
**久益屋商店**  
 磐城平町五丁目 電話九九九  
 □良品廉賣に勝る商略なし  
 □確實敏捷は久の生命なり

# 雪崩こむ人出に備へ

## 舊盆に臨時列車編成

### 七夕祭の辛い経験から

#### 平驛早くも準備に大童

平町空前の七夕祭風景を見せた今年の七夕祭見物人は平驛だけで三日間に二萬人の乗降客を出し一日平均六千人強と云ふ物凄い人浪、殊に最高調の二、三日は殺倒する乗客を各列車共收容し切れずガソリン車三臺編成の汽動列車を出す等新機軸を案出して辛くも輸送したがその後に来る行事は常磐線隨一を誇る最大行事石城地方の舊盆が控へて早くも左の夜間歸り臨時列車を運轉することとなり今度こそ大丈夫と鐵道側では旅客収入を目指して張り切つてゐる

草野發	同	〇時三分	綴發	同	〇時三分
四ツ倉發	同	〇時九分	湯本發	同	〇時三分
久ノ濱發	同	〇時四分	泉發	同	〇時四分
平發	午前〇時五分	植田發	同	〇時五分	
赤井發	同	〇時三分	勿來發	同	一時五分
小川郷發	同	〇時三分	關本發	同	一時五分
平發	午前〇時二分	磯原發	同	一時五分	
		南中郷發	同	一時五分	
		高萩發	同	一時五分	

## 四倉市場第二日

### 前日より十錢高

#### 高騰見越して活氣づく

四倉南市場第二日の昨二十七日取引は總數二百七十六貫、高値四圓七十錢、安値四圓三十錢、平均四圓五十二錢、三十七掛で前日より十錢高値を呼び二十九日頃より長章とは左胸ポケットにつける同大の二本の白線の布片、次長章は一本にて區別し、ネッカチーフは當圓にては健兒は海老根茶色、指導者は緑であるが實習所にては銀鼠色のものを用ひこの色のネッカチーフが實習終了の證ともなるものである。右胸ポケットに氏名を記入した名札を、左肩に班別章をつける、鳥獸名の班の場合、班別章の色は其の鳥獸に似た色である。例へば熊班が黒、鹿班が黄の

## 大島の健兒行

少年團教育と實習所

渡邊啓二

(設營作業)

班の組織終つて所長より隊長、實習所員の紹介あり所長はこの實習所のマスターにして、指導一切の任に當りて嚴父の如く、隊長は實際の具體的指導に當りて慈母の如く、所員は補助の役をなす。尚班長章、次長章、ネッカチーフ(襟布)班別章、名札を支給さる。班

## 秋刀魚漁

### 準備開始

石城各濱賑ふ

り來月上旬迄が出廻最盛期と見られるが本年は天候に恵れて出荷量はいづれも極めて上質の物が多く昨廿六日の不振は一時的なものに見られ相場と強氣を見せて居るのでこの分では昭和九年當時の養蠶景氣を再現するたうと農家では張り込で居る

## 縣參事會員が

### 郡下出納検査

港修築事務所

石城地方に於ける縣參事會員出納検査日割は來月二日より六日迄甲、乙二班に分れて行はれるが甲班は大竹作摩、小野晋平、深谷新之助、菅野喜三郎、菊地善吾、乙班大木代吉、渡邊鐵太郎、野崎滿藏、高野與祖次郎、物江浩、の諸氏である

### 教育講習終了

去る二十五日から平第一校に開催された石城教育會主催郡下各小學校教員の「日本的及び郷土的學級經營」の講習は、既報掘つた土砂は穴の側に高く積み、使用後は其の土砂をかけて置く。而も手製のへらにてかける様にして置く長い間の野營生活から見て、誠に衛生である、尙この便所、塵捨には枝蒿、竹等にてあまたたる蓋を作られる。附近の大きな石を集めて釜土を作り、其上に茅にて雨露を防ぐ屋根が作られる。物干場も自然木を利用し、腰にしたるロープにて出來上る。

縣試驗船着丸は船體修理も完成二十五日サンマ漁場調査に出帆した

演習に關し町一般民の防空思想普及の傍ら分會の基金造成のため燈火管制用マツダランプを特約、明廿八日から町内各戸を訪問して販賣することになった、右電珠は東京警備司令部證明の燈火管制に最も適當便利なるもので演習中も不斷同様使用出来るものである

營の實際に關する講習會は今二十七日限り終つたが連日五百餘名の受講者あり今夏期講習會の裨尾を飾つた

燈火管制用  
ランプ販賣  
平在郷軍で各戸へ  
十一、二の兩日行れる防空

坂口東鐵局長 新任  
平驛其他視察 坂口  
東京鐵道局長は管内初巡視の途來月七日午後來平、驛機關庫保線區檢車所等を視察して住吉屋本店に一泊、翌日は小名濱商港及び磐炭を視察の上歸京する

野球申込延期 既報  
九月二十日開催される平青年團主催各分團對抗軟式野球大會の出場申込みは去る二十五日迄であつたのを都合に依り九月十日に延期した

御中元の御贈答に  
商品券  
御利用下さいませ  
ふかや洋服店 平町203



泉村篤農視察 北會  
津郡門田村農會幹部十五名は來る一日自動車で來郡、泉村宇露篤農家志賀澤之助方の農事方法を視察する

# 踏切の真ん中で

## 動かぬ自動車に

### 轟進し來つた列車が衝突

#### 十間程跳飛ばされて大破

廿六日夜十時十七分頃平町二町目子自動車部吉田彌之助方運轉手袖井幸雄君(三)が内郷方面に貸切で行つての歸途助手草野又吉君(三)と同乗空車を運轉して同村綴字白水街道常磐線踏切中央に差ししかつた際折悪しく突然エンジンがストップした途端轟進し來つた湯本驛同十三分發下り青森行急行列車が衝突、ハイヤーは約十間程列ね飛ばされて客席を大破、幸ひ運轉手及び助手は輕傷も受けなかつたがそのため同列車は七分餘遅延した、損害は目下調査中、因に同ヶ所は昨年二月頃濱崎警察副所長其他が遺離した同一場所であ

#### 漁夫の行衛

宮城縣牡鹿郡鮎川濱漁夫平之助長男阿部竹松(三)は昨年九月十三日江名町大字江名漁業家小松金重郎方漁船の機關手として出稼以來音信を絶つてゐたが最近になつて實家は生活困難になつたので歸宅方照會した處竹松は去る四月中既に小松方を辭めて小名濱方面の氏名不詳のコンコ繩と稱する漁船に乗り込み居ることまでは判明したがその後の消息不明のため廿七日平署へ實父から捜査方願ひ出た

#### 陸軍大演習警備に

##### 平署の精銳を選抜

###### 六警官來月中旬渡北

北海道で來月下旬から行はれる陸軍大演習に際し本縣下からは各署より七十餘名を選抜警備の衝に當るが平署からの應援警察官は左の如く決定、來月二十日頃出發、約三週間滞在する  
草刈部長、熊田刑事、遠藤巡查(以上本署詰)井上(鹿島)菊地(湯本八仙)金澤(玉川)

#### 極貧家庭に微笑む

##### 救済の愛の手

###### 各種救済事業に恵まれ

###### 平町の貧困者數が減少

(既報)舊盆を控へて例年の如く貧困者救済のため平町社會事業助成會では昨二十日午後一時から評議員會を開き協議、該當者に就き査定した結果、七十九戸二百九十七人に對して總額九十八圓五十六錢を明二十八日から方面委員が各家庭を訪問、左記割當て救済金を支給することになつた、尙今回は本年正月の救済當時に比較して十五戸四十三人の減、金額にして十六圓十

### 明日のラジオ

廿八日

今晚は南の風曇  
驟雨模様 明日  
は南東の風曇驟  
雨模様

### 今晚の部

後六〇〇 夏休み玉手箱  
後六二五 趣味講座史蹟  
巡り一千代の松原と相  
島 永島芳郎  
後七三〇 講演「長崎に  
於ける幕末頃の學生生活」  
一林郁彦  
後八〇〇 ビアノ獨奏  
モーツアルトの「奏鳥曲」

### 明日の部

長調「土川正浩  
後八二〇 うた澤 哥澤  
泰光太夫 歌澤寅松  
後八四五 浪花節「陸奥  
美談黄金の華」東武藏  
後九三〇 時報 ニュー  
ス 明日の話題 氣象通  
報 番組豫告

### 石炭列車

#### 一時運轉休止

舊盆の輸送不振で平驛では地獄の蓋も開くと云ふ舊盆も愈々迫り常磐炭礦の各山元も一齊に休業に入り石炭輸送列車は當分ガラ空きとなるので來る三十日から來月二日迄に石炭輸送二十二列車の運轉を中止することになつた

### 平職業紹介所報告

人々を求めの方

- △出前持 十八才迄 給五圓 尋卒
- △小店員 十九才迄 給十圓
- △雜夫 二十才迄 給八圓
- △トラク助手 廿才前後 給面談 尋卒 以上

職を求めの方

- △寫真見習 仕着小遣
- △店員 十八才 高卒
- △日立機械工 十八才 高卒
- △日立職工 十八才 高卒
- △機械見習工 二十才 高卒

#### 灌漑用貯水池

##### 鹿島村で築造

鹿島村では水不足に悩む同村東部一帯の水田涸渴を防止するため多年の懸案として有志間に灌漑用貯水池の築造を叫ばれてゐたがこの程漸く具体化し同村大字蔵持寺寺ノ内地内の凹地に大坝を築き總面積十町歩に亘る廣汎な貯水池を建設することになり準備を進めてゐる

#### 無縁佛の

##### 供養を行ふ

平町社會事業助成會ではさきに行路病者等の無縁佛供養塔を同町八幡小路共同墓地に建設したが本廿七日午後二時からその供養を行つた

#### 防空演習の

##### 執務協議

本日平局で會堂

既報平郵便局は近く實施される防空演習に準へる爲め仙臺通信局の岩田書記を講師に迎へ本二十七日午前十

#### 平機關庫

##### 定期検査

平機關庫のカンドリクレーンその他蒸氣汽管類の定期検査は來月二十三日から十月上旬に亘つて執行される

#### 裁判一束

△小名濱町字南町二九青物商澤田來(三)は今二十七日平區西判事から傷害罪として略式罰金二十圓に處されたが同人は去る五月二十八日午後八時頃自宅で飲酒中同町字定西熊田春吉氏が精神病者の姪根本トク(三)さんの後を追つてゐるのを悪漢だと思ひ違ひして物もいはず飛びかゝり拳で頭部を毆打全治一週間の傷害を負はせたものであると

△平新町四三自動車運轉手原田猛(三)は去る六月十六日午前十一時頃乗合バスを

#### 職を求めの方

職を求めの方

- △寫真見習 仕着小遣
- △店員 十八才 高卒
- △日立機械工 十八才 高卒
- △日立職工 十八才 高卒
- △機械見習工 二十才 高卒

#### 長橋青年團服

長橋町青年分團は團服を新調したので今二十七日午後七時分團長宅に集合新調團服を着けて尼子神社に参拜する由



（海上）  
丸尾至陽（作）  
悟道軒圓玉（作）  
尾至陽（書）

二〇八 勝安房来る  
高木伊兵衛はお花こと土井伊織を榎本君に託して開陽丸を去る、これから榎本君は土井伊織を士官に紹介して威臨丸といふ船へ乗せた、榎本君は出航準備を命じ北海道へ向けて品川灣に碇泊せる船の錨を抜く事にした、折しも浪をつんざき征矢のごとくこれへ漕ぎよせた解



○「開陽丸の旦那がたにお願ひ申します」  
と舷頭に立つた船頭がさげんだ

□「お、何か」  
と開陽丸の番兵が問ふ

船「私は鐵砲洲の船宿松坂屋の船頭でございますが榎本様に御用のあるお客様をおつれ申して参りました」  
□「それは誰方か、イヤ何者か」  
とうたがこの時舷頭に出た一人の武士は黒の紋付の袴小袖に野袴をうがち、兩刀を佩ひ輝色本綿の割羽織を着て黒塗裏金の陣笠をかぶる者は幕臣のうちで身分のある人、その人が船を見上げて

と申しました。そこで番兵が鐵製の梯子をおろす、勝先生は船の甲板に上りあたりを見つめて煙突より煙をふき、それに大砲にも弾丸が込められて見えて、士官は兵士と共にそこをかためてゐる、この開陽丸はオランダで製造した戦闘艦で二百八十トン、推進機は四百馬力、速力九マイル四分三、十二センチクルップ砲六門を備へた當時としては第一の戦闘艦です。それが威風堂々

と天下無この横着者だといふ、または幕末の大英雄だともいふ、朝鮮の大院君に支那の李鴻章、日本の勝先生を東洋の三爺といつた東洋に食へない爺三人あり李爺大院に勝の海舟、誰がこんなことをいつたかそれは判らぬが勝先生これを聞いて飛んでもねえことをいふ奴だといつて笑つたさうです。やがて番兵の案内にて艦長室に通つた、榎本君は椅子をすゝめ、榎「おいとまごひとして氷川のお屋敷まで出向く心得でございますが急に出動いたすことになりしたため大いに御不禮をいたしました」  
勝「オー榎本、俺も今度は困つたよ、貴公はいたづらものだな、この船をはじめこれに碇泊いたして居る船は官軍に引きわたすが當然

す、番兵はすぐにこの事を榎本君に取次いだ、榎本君はこれを聞いて、榎「勝が出て来たか、参るだらうとは思つて居つたが察せしごとく出張したか、これに官軍よりの申付けでこの出動を止めるためであらう彼が参つたが幸ひわれらの意中を申し聞けるであらう、これへ案内いたせ」

や品川灣より出動なさんとするその光景は最も壯觀です、勝先生はこの状を見て勝「大分殺氣をよくみ居るな、戦ひをする意志を有つてゐるか、これ程の船があつては無事では済むまい、それに榎本は戦好きだからなア」  
と云ひながらニヤリ／＼と笑つてゐる

であらう。それを貴公が率ゐて、聞ところによると蝦夷地に参るとのことだがそれはよろしくない」  
とかう云つた、榎本君はこそについては答へもいたさず勝先生の顔をぢろ／＼見てゐる、さアこの事が船中に知れ渡るとさうにゐるものはみな幕臣で官軍を憎んでゐる人々、勝は薩藩の西郷と示し合せて徳川家の無事と江戸の市民の安寧をおもうためとの口實で江戸城を開け渡すとは不埒至極の家康公以来のこの城を官軍の手にもやみやみとひき渡したは不忠な奴だ、今日これへ参つたも出動を止めるためであらう、次第によつては彼を真二つにいたしてくれると大分この空氣が險悪になりました。

**婦産人科科**  
手術室 完備  
醫學博士 **五十嵐雄二**  
平町・新川町一  
**五十嵐醫院**  
電話番號變● 電話三六九番

**外科 内臓外科 院長 安齋 徹**  
**X光線科**  
**新設**  
**産婦人科 醫學士 黒澤 廣**  
▽入院隨意△  
平町 田町  
**安齋醫院**  
電話 四七五

**佛壇佛器具各種賣出し**  
佛の供養に何人様も御準備を！  
佛壇、位牌、佛膳、佛枕、高月、茶碗臺、木魚、木杵、經本、球數、過去帳、輪及臺、線香立、花立、常花、ローソク立、香爐、佛器、新盆の御家庭へ贈つて喜ばれる佛器具を御勧め致します

**丸ほん商店**  
平三丁目・電話三五九番

**青光院儀** 新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物一切御辭退申上度甚た乍勝手謹告仕候  
昭和十一年舊七月  
平町 舊城跡  
**青沼鋒太郎**

**芳原院儀** 新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物一切御辭退申上度甚た乍勝手不惡御諒承願上候  
昭和十一年舊七月  
平町 土橋  
**原 精一**

**亡父應和院儀** 新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物一切御辭退申上度甚た勝手不惡御諒承願上候  
昭和十一年舊七月  
平町 古鍛冶町一〇  
**阿部 康雄**

**西岸院儀** 新盆に相當り候へ共時節柄提灯其他供物一切御辭退申上度甚た乍勝手以紙上御通知申上候  
間惡しからず御諒承願上候  
昭和十一年舊七月  
平町 南町七三  
**西丸 政治**  
**西丸 辰雄**

**峻徳院儀** 新盆に相當り候得共時節柄提灯其他供物等一切御辭退申上度甚た乍勝手不惡御諒承願上候  
**坂田 藤助**